

2017年10月2日

## 日本ユニシス ユニシス技報 通巻 133 号 「特集：オープン勘定系の 10 年」を発行

— 初稼働から 10 年が経過した BankVision<sup>®</sup>の成果と今後の戦略を紹介 —

日本ユニシス株式会社（本社：東京都江東区、社長：平岡 昭良、以下 日本ユニシス）は、ユニシス技報 通巻 133 号「特集：オープン勘定系の 10 年」を発行しました。

ユニシス技報は、お客さまが抱える経営上の課題や技術的な問題を、情報技術を活用して実際に解決した方法や努力、成果について紹介する日本ユニシスグループの論文誌で、1981 年に創刊し、1987 年以降は年 4 回発行しています。

日本ユニシスのオープン勘定系<sup>(注 1)</sup>システム BankVision は、初稼働から 10 年が経過し、現在では地方銀行 10 行で採用されるシステムに成長しています。この間、安定稼働を継続しながら、オープンシステムの柔軟性を活かして、ハードウェアの性能アップやソフトウェアの機能向上に迅速に取り込んできました。一方、金融機関を取り巻く環境や IT は大きく変化しており、日本ユニシスは、SoE 領域<sup>(注 2)</sup>の開発や API 公開、パブリッククラウドの活用など、新たなサービスの開発や基盤の構築にも取り組んでいます。

本号では、BankVision の初稼働から現在までの基盤環境の進化を辿るとともに、今後の地域金融機関のありかたと、法制度改正や仮想通貨、Fintech 対応等の環境変化を見据えた、対話型接客ソリューションとモバイルタブレットのセキュリティ対策、BankVision の Web API 公開、バッチ処理のプログラムレス開発への取り組みを紹介しています。

今後も日本ユニシスグループは、ユニシス技報を通じて情報システム構築や運用への取り組みを書きとめ、広くそれらを共有し伝承していくことで、情報技術産業の成熟に「作り手」として寄与していきます。

【ご参考】ユニシス技報 通巻 133 号「特集：オープン勘定系の 10 年」の内容は、以下のとおりです。

- 巻頭言 特集「オープン勘定系の 10 年」の発行に寄せて
- 基調論文
  - ・ これからの地域金融機関の基幹システムのあり方
- 論文
  - ・ 対話型接客ソリューション“SmileBranch<sup>®</sup>”がもたらす顧客体験
  - ・ モバイルタブレット導入とセキュリティ対策の実際
  - ・ ビジネスエコシステムを実現する BankVision の API 公開
  - ・ BankVision を支える基盤環境の進化
  - ・ BankVision 環境に対するプログラムレス開発ツール活用
- 技術解説
  - ・ ブロックチェーンがもたらす社会変化

以上

※注 1：オープン勘定系

銀行の基幹業務システムを、従来のメインフレーム上ではなくオープンプラットフォーム上に構築した勘定系パッケージのこと。

※注 2：SoE (System of Engagement)

人との関係を構築するためのシステムのこと。

■関連 URL：

- ・「ユニシス技報」 [http://www.unisys.co.jp/tec\\_info/](http://www.unisys.co.jp/tec_info/)
- ・「BankVision」 <https://www.unisys.co.jp/solution/lob/fs/bankvision/>
- ・「SmileBranch」 <https://www.unisys.co.jp/solution/lob/fs/smilebranch/>

※BankVision、SmileBranch は、日本ユニシス株式会社の登録商標です。

※記載の会社名および商品名は、各社の登録商標または商標です。

※掲載のニュースリリース情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。